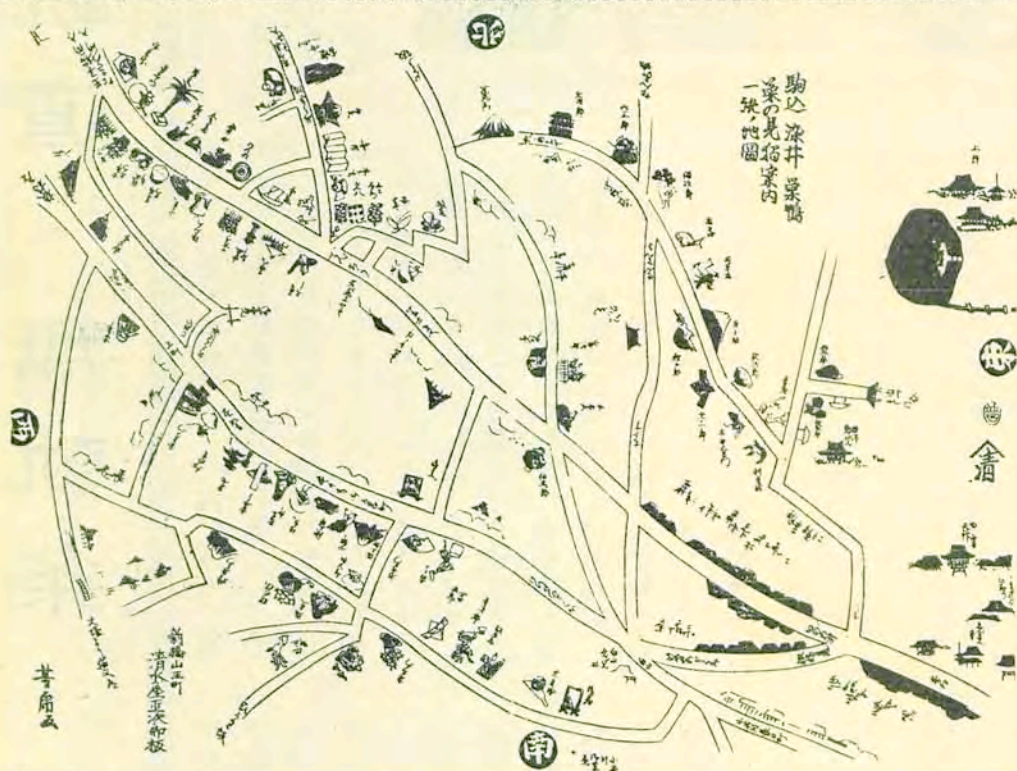


かたりべ51

豊島区立郷土資料館だより

駒込・染井・巢鴨 菊の見独案内一覽ノ地図



〈新資料紹介〉

江戸後期、駒込・巢鴨の植木屋の間で三度大流行した菊造りは、従来の「花壇造り」ではなく、菊の花を用いて人物鳥獣などさまざまな形を造る「造り菊」が主流でした。

物珍しさと観覧無料が江戸庶民に人気を呼び、秋には菊の番付・錦絵・案内図が多数刷られ、茶店・料理屋が立ち並び、見物人が群集して大変な賑わいだったといえます。

上の図は役者絵で有名な歌川芳虎による版画で、七五名の植木屋と出し物が彩色で描かれています。改印などから弘化二（一八四五）年の作と思われる。図右下の追分で道が三つに分れ、右に進むと千駄木、まっすぐ日光御成道を進むと駒込・染井、左の中山道を行くと巢鴨と、三カ所で菊見が楽しめました。さらに上野寛永寺・根津神社・湯島天神・王子稲荷なども図示されており、寺社参拝とセットに数日かけて菊見を楽しむ人も多かったことでしょう。

明治期になると菊見の舞台は団子坂の「菊人形」に移り、観覧料をとる興行的な性格に変わっていきます。 ※菊見の展示は11月から。「横山」

☆ ترامとメトロ
◎ 郷土資料館収蔵品展 ◎ ☆

軌道・無軌条・地下鉄道

☆ 往事を偲ぶ ☆

かつて東京における交通手段の主役であった都電は、最盛期の一九六〇年代の初めには四〇の路線を有し、軌道の総延



1960年代末の池袋駅前（松井一彦氏提供）

長は二一三・七kmで、一一九二両もの電車が市街地を縦横に走っていました。そして四七八もの停留所の間隔は短く、通勤・通学はもちろん、ちょっとした移動にも大変便利な乗物でした。まさにもっとも身近な「都民の足」だったので。このような身近で便利だった乗物も一九六〇年代の後半から急速に姿を消していきます。現在は都電といえば荒川線。荒川線以外にも都電と呼ばれた路線があったことを知らない人も多くいます。そこで、このコーナーでは都電華やかにしころの写真や、乗務員の制服、レールや営業所の食堂で使用されていた食器などを展示します。

☆ 明治・大正路面電車グラフィティ

地下鉄や自動車のない時代、路面電車は都市交通の花形でした。東京に馬車鉄

道が敷かれたのは一八八二（明治一五）年のことで、東京馬車鉄道会社により新橋―日本橋間に敷設されました。また、路面電車が都市民衆の足として定着しつつあった時代の絵も興味深いものがあります。また、東京の名所・景勝地の紹介記事に関連した写真には必ずといっていい程、路面電車の軌道や車両、そして利用する人々の姿が写しだされています。このコーナーでは、明治・大正期の東京の風景・風俗を活写した雑誌「風俗画報」に数多く掲載されている、路面交通の絵や写真を紹介いたします。

☆ 王電から荒川線へ ☆

現在、都内に残る唯一の都電が荒川線で、早稲田―三ノ輪間の一二・二kmの間を走っています。荒川線はかつて27・32系統と呼ばれる都電で、一九七四（昭

和四九)年にその存続が決定した時に現在の名称がつけられました。この路線は王子駅前―赤羽間(27系統)も含めて、一九四二(昭和一七)年、東京市に買収される以前は王子電気軌道株式会社が経営していました。この「王電」時代について、社史に掲載された写真などを通じて紹介いたします。



大塚車庫前 (松井一彦氏提供)

☆都電と豊島区☆

豊島区では七つの系統の都電が走っていました。大塚―錦糸堀間を走っていた16系統。池袋駅前―数寄屋橋間を走る17系統。志村坂上―神田橋間の18系統。王子駅前―日本橋間の19系統。現在の荒川線の前身である荒川車庫前(王子駅前)―早稲田間の32系統。巣鴨車庫前―田村町一丁目間の35系統。巣鴨車庫前―志村橋間の41系統。以上のような路線について写真を中心に紹介します。

☆短命に終わったトロリーバス☆

トロリーバスの法規上の名称は無軌条電車といい、一九五二(昭和二七)年に上野公園―今井間が開業しました。そして、一九五六年に池袋―品川間が、翌年に池袋駅前―亀戸四丁目間が完成し、全長約四七kmの環状線が開通しました。しかし、すでに東京の都心部では自動車による交通混雑が慢性化しはじめ、トロリーバスは、運行スピードと輸送効率の低下傾向にありました。そして、一九五九年の自動車の軌道内乗り入れ実施によっ

て、都電とともに姿を消していくことになりました。ここでは、わずか一六年の短命だったトロリーバスについて紹介いたします。

☆都市交通の「いま」と「これから」

都電に代わって「都民の足」として活躍している地下鉄は、現在一二路線が営業中ですが、将来の交通需要に備えて、より利用しやすく、より効率的な交通機関へと変化しつつあります。その一方で路面電車も、低床で乗客にやさしく、排気ガスのないことから昨今見直されつつあります。そこでこのコーナーでは、東京の交通機関の歴史を振り返り、都電が廃止された意味について考え、都電・地下鉄などの交通機関の現状と今後について考えたいと思います。 [伊藤]

会期：九月二六日から十一月一日まで

★なお、会期中に新宿・板橋・北・豊島の四カ所のスタンプを集めた方には、記念品を差し上げます。記念品が無くなり次第締切りますのでお早めに!★

◆四館合同企画展示会

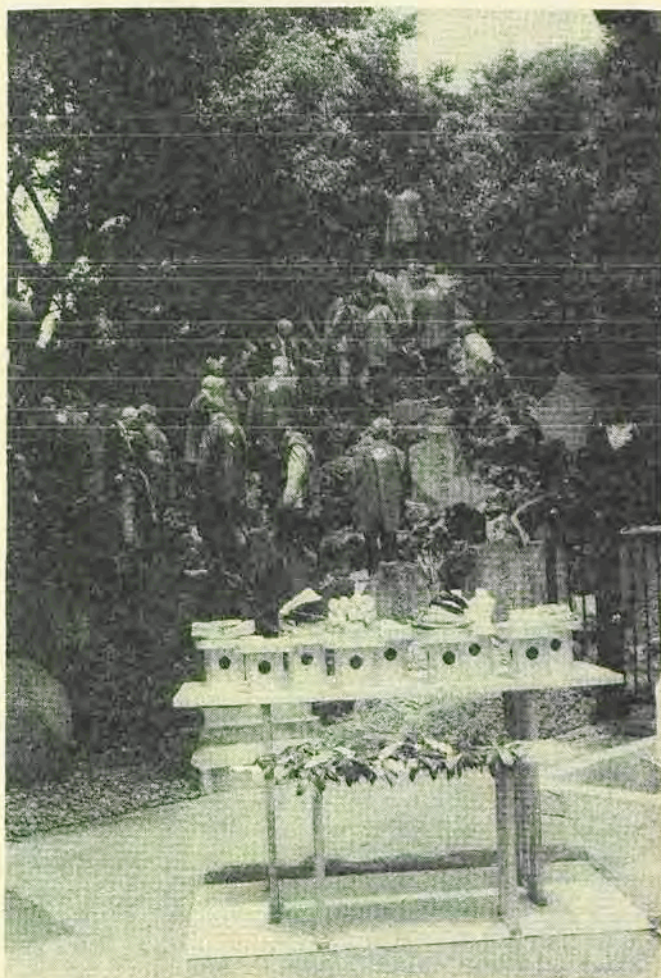
「トラムとメトロ」見学会の開催

ふだん入ることのできない都電と地下鉄の車両検査や修繕の現場を見学し、好評を得ました。見学先は、光が丘車両検査場（八月七日）、志村車両工場・春日保線区（二〇日）、荒川電車営業所（二七日・写真）で、業務に就いていらっしゃる方から直接説明をいただきました。



◆五〇年ぶりの「お山開き」見学

池袋本町三丁目の氷川神社境内には、人造の富士山があり、〈富士塚〉とかへお富士さんと呼ばれ、地域の人達に親しまれています。一九四四（昭和一九）年までは毎年七月、実際の富士山と同じように、この富士山も山開きをしていました。今回、その行事が復活しました。これには、「地域の結束を固めるため」という願いがあるようです。「福岡」



1998年7月1日撮影。参道の合目石に従って登山。祭壇には、米、酒、塩、魚、野菜、鶏卵等が供えられている。

福岡 集 後 記

今年度ももう半年が過ぎ、来年度の事業計画をたてる時期になりました。さて、どこからたてよう？「かたりべ」の印刷は・・・？「福岡」

か たり べ

№ 5 1

1998年9月21日

豊島区西池袋2-37-4

電話03-3980-2351

発行／印刷
豊島区立郷土資料館